



報道関係各位

平成29年6月29日

神恵内村と北海道立総合研究機構建築研究本部との 津波防災対策に関する協定書調印式について

◆ 概要

後志管内神恵内村（以下「村」）と地方独立行政法人北海道立総合研究機構建築研究本部（以下「道総研」）は、村の津波防災対策の策定や実施について、村と道総研が相互に連携・協力することで、津波による被害を軽減し、住民の生命を守ることを目的として、津波防災対策に関する協定を締結することになりました。

つきましては、下記のとおり協定書調印式・共同記者会見を行いますので、お知らせします。また、記事掲載については、7月6日の記者会見後としますので、よろしくお願いいたします。

◆ 調印式および共同記者会見

日時：平成29年7月6日（木） 14：00～15：00
場所：神恵内村役場 2階議員控室（古宇郡神恵内村大字神恵内村81-4）
出席者：神恵内村 村長 高橋 昌幸
北海道立総合研究機構建築研究本部 本部長 鈴木 大隆

◆ お問い合わせ先

神恵内村 総務課（担当：長浜）
古宇郡神恵内村大字神恵内村81-4
TEL：0135-76-5011 / FAX：0135-76-5544
E-mail：soumu-2@vill.kamoenai.hokkaido.jp

北海道立総合研究機構建築研究本部 企画調整部企画課（担当：本荘）
旭川市緑が丘東1条3丁目1-20
TEL：0166-66-4217 / FAX：0166-66-4215
E-mail：nrb@hro.or.jp

◆ その他

- ・上川総合振興局記者クラブと同時配付
- ・記事掲載については、7月6日の記者会見後にお願いします。

背景

市町村等地域での被害想定と津波防災対策を実施するための課題

マクロ的な被害予測手法

歩行速度は一定であり積雪、暗夜による避難速度の遅延など環境条件による影響を考慮できない

道路密度が小さい広域・低密度の地域

最短距離による避難計画では低密度な北海道では誤差が大きい

時間の要するまちづくり

市街地の再編、海岸保全施設等の整備の評価に必要な時間経過

目的

- 積雪寒冷や暗夜条件などによる最大リスクの評価手法並びに都市・地域の人口や土地利用の経時変化を考慮した津波防災対策効果の評価手法を開発
- 具体の市町村で津波避難計画や津波防災地域づくり計画を作成するなどにより実証的に展開

研究概要

1) 北海道の環境条件を考慮した津波リスク評価手法の開発

避難経路の使用可能性評価、避難速度の測定(図1)、避難場所の妥当性評価

2) 時間的変化を考慮した防災対策効果の評価手法の開発

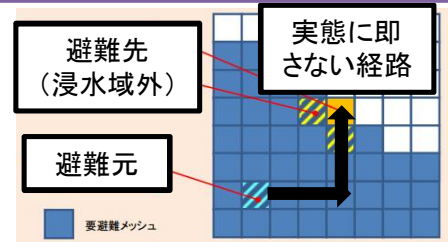
地域レベルでの人口変動予測(図2)、土地利用計画に基づく地域の変遷予測、海岸保全施設等の整備による浸水域の変化の予測、現時点と時間経過後のリスク比較(図3)

3) 津波対策決定プロセスを支援する防災計画の定量的評価手法の開発

防災対策にともなう対策コスト・安全性・利便性・地域産業への影響評価、AHPを適用した防災まちづくり案の評価(図4)、津波対策決定プロセスの提案

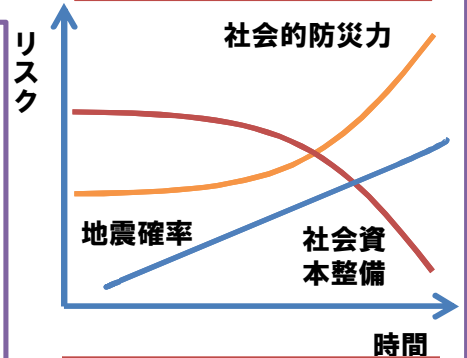
4) 地域における計画策定を通じた実証的展開

地域における課題整理、評価の実施、津波避難計画及び防災まちづくり案の検討



マクロ的評価手法の概要

- ✓ 避難経路は使えるか?
- ✓ 冬季の避難速度は?
- ✓ 避難先は安全か?



- ✓ 時間で変化するリスク
- ✓ 防災対策はいつ行うか?

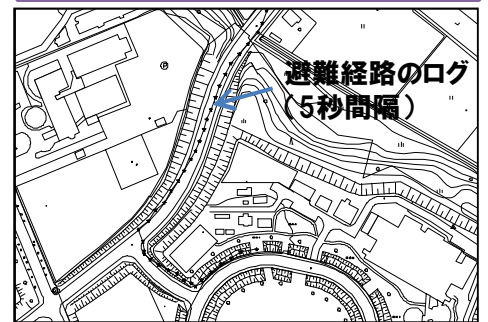


図1 GPSを用いた歩行速度の計測



図2 地域別の人口予測

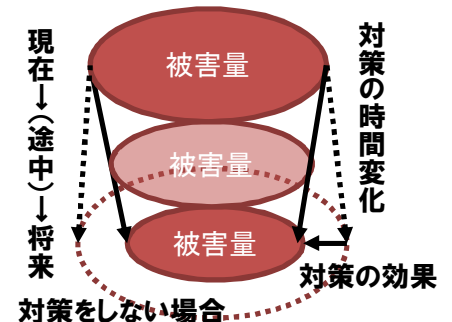


図3 被害予測比較

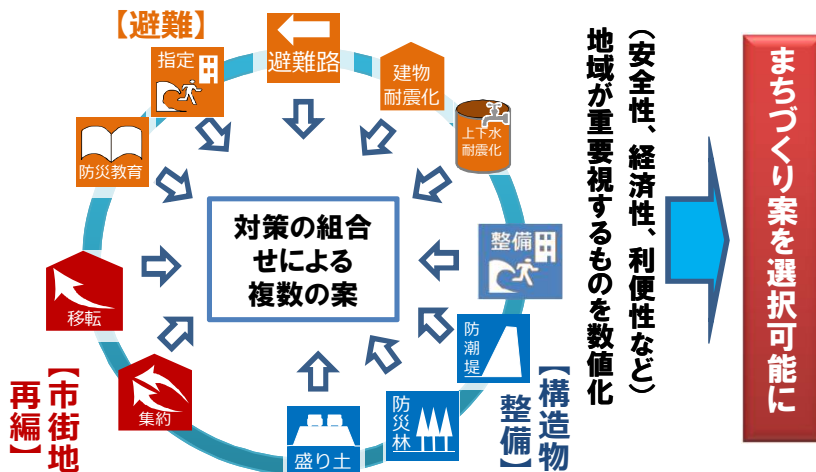


図4 防災まちづくり案の評価イメージ

成果活用

- ① 北海道の環境条件を考慮した津波による最大リスク
- ② 地域の経時変化を考慮した防災対策効果
- ③ リスク評価の結果を踏まえた防災対策の優先度

北海道との連携

道総研の技術支援

市町村が津波防災対策へ活用し、住民の生命を守る

	神恵内村 かもえないむら			
	後志振興局			
人口	897人 (H29.3住民基本台帳)			
面積	147.71km ²			
基幹産業	漁業 (ホタテ、イカ、ホッケ、サケ、サクラマス ヒラメ、カレイ、ウニ、アワビ、ナマコなど) 観光業 (H28年度観光入込客数19万人)		ホームページ : http://www.vill.kamoenai.hokkaido.jp/	
概要 (位置・地勢・ 気候・歴史等)	日本海に突き出た積丹半島の西側に位置し、古宇 (ふるう) 場所と呼ばれていた江戸時代からニシン漁で栄えてきた。山と海に挟まれ、海岸線の大部分が「ニセコ積丹小樽海岸国定公園」に指定されており、急峻な海岸地形と奇岩怪石が点在する景勝地となっている。			
社会資本など (検索用キーワード)	海	○	日本海、竜神岬、西の河原、窓岩、あんない展望公園、釣り、前浜、ニシン袋澗	
	河川	○	二級河川古宇川、珊内川	
	JR駅	×		
	高速道路	×		
	国道	○	国道229号、積丹半島周回道路	
	道道	○	道道998号線、古平神恵内線	
	道の駅	○	道の駅「オスコイ!かもえない」	
	空港	×		
	港	○	神恵内漁港、赤石漁港、珊内漁港、川白漁港	
	公立病院	○	村立神恵内診療所 (内科・消化器内科・小児科)	
	大学等	×		
高校	×			
主な取組や地域資源	観光	道内指定第1号の青少年旅行村。海水の1.3倍もの塩分濃度をもつ国内有数の強塩泉「温泉998」。廃校舎を利用し、全国各地の郷土玩具を展示した「日本郷土玩具館」、ユニークなネーミングのさわやかトイレ (村内10カ所)、998パークゴルフ場など。		イメージキャラ  どらこん太  たつ姫
	産業	水産資源の維持増大を目指し、サケ・マス・ホタテなどの増養殖に取り組む傍ら「神恵内村藻場∞LANDプロジェクト事業」で藻場の保全活動を実施中。近年は、ナマコの種苗生産や冬期のウニの短期畜養を実施している。特産品は、活ホタテ、「甘漬うに」や干物珍味などの水産加工品。		
	行政	「村民主体・村民本位」を村づくりの方向性に掲げ、住民との対話の機会を充実し協働の村づくりを進める。村民誰もが顔見知りの優位性を活かし、職員が地域の活動や村の行事に積極的に関わることで村民との信頼関係を構築する。		
	スポーツ文化・教育	松前神楽、村民運動会、村民ベタンク大会、ソフトボール大会など。		
	都市 (農村)	28年度～村PR、移住定住、空き家対策を目的に「DIYがっしゅく」を4回開催 村外参加者 延べ154人 (空き家改修、漁船クルージングなど)		
	防災	21～22年度…防災行政告知放送設備 (IP告知放送) 及びテレビ地上デジタル放送設備整備 23年度…非常持出袋 (全24点) を全世帯に配付。避難施設に備蓄食料や衛星携帯電話を整備 24年度…津波避難訓練の実施 (136人参加)。避難所・集会施設及び村道に海拔標示を設置 28年度…神恵内村津波ハザードマップを作成・全世帯に配付 (H29.4)		
連携・交流の現状	姉妹・友好提携 (道内・国内)			
	防災協定			
	その他の交流 (道内)	28年度～赤井川村との地域間連携事業 28年度～道都大学との域学連携事業		
自己PR	豊かな自然や新鮮な海産物が魅力ですが、村の最大の自慢は「人の温かさ」です。村の人口は道内で2番目に少なく、昨年末に千人を割ってしまいましたが、一人ひとりが主役となって、みんなが力を合わせて住みよい村づくりを進めています。			
問い合わせ先	所属	総務課総務係	TEL	0135-76-5011
	E-mail	soumu-2@vill.kamoenai.hokkaido.jp	FAX	0135-76-5544